

第18回「斐伊川・神戸川流域環境マップづくり」成果発表会

日時：令和6年11月30日(土)14:30～16:00 会場：出雲科学館 理科学習棟3階

主催：NPO法人しまね体験活動支援センター

後援：出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、奥出雲町教育委員会、飯南町教育委員会、
国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

助成：島根県（社会貢献基金活動支援）、一般社団法人中国建設弘済会

総評：出雲市教育委員会教育政策課 副主任 恩田奈穂子氏

来賓：国土交通省出雲河川事務所 総括保全対策官 眞田淳二氏、

一般社団法人中国建設弘済会 島根支部長 江角忠也氏

出雲市環境政策課 課長 川上 寿氏

内容：斐伊川・神戸川流域の2小学校、1高等学校の児童・生徒が2024年に実施した河川環境調査等の取り組みをプレゼンテーション、動画などで発表しました。

出雲市立遥堪小学校6名、雲南市立鍋山小学校7名、出雲西高校インターアクトクラブ2名に(発表順)に発表していただきました。その後、他校の発表を聞いた感想など会場での意見交換を行い成果の検証を行うとともに活動の成果を共有しました。最後に発表校には表彰状と記念品贈呈も行いました。



【出雲市立遥堪小学校の発表】



【雲南市立鍋山小学校の発表】



【出雲西高校インターアクトクラブの発表】



【感謝状・記念品贈呈】

遥堪小学校の発表内容

私達4年生は地域の川や川の環境について調べてきた。9月12日に高浜川を調査した。天気は晴れ、気温34度、水温29度、透明度100cm。パックテストでの調査ではCOD5、pH7の結果だった。水生生物ではエビ類が60匹いた。水質判定では水質階級Ⅱの「ややきれいな水」であった。

夏には大雨により道路が冠水するなどの被害もあった。遥堪小学校の周辺の環境は素晴らしいが高浜川がコンクリートの護岸となったため、40年前の自然の護岸の時と比べると生き物が減っているとのことだった。人間と生き物が同じところで生活していくには問題もある。しかしコンクリート護岸の高浜川があるおかげで遥堪地区は安心して暮らせて、また沢山のお米が取れる。

私たちの暮らしが豊かになるにつれ地球温暖化が進んできている。このままでは50年後に夏の気温が40度を超えてしまうと聞いた。こうした身近な環境を守って行くためには、地球温暖化などの環境問題に関心を持つことが大切であると感じたので、地球温暖化に大きな影響がある二酸化炭素の排出を減らすため「ゼロカーボンチャレンジ」に取り組んだ。その学習で学んだことは、2月に行われる遥堪コミュニティセンターの発表会で地域の皆さんに報告をする。山・川・田んぼなど豊かな自然に囲まれた遥堪の自然をこれからも守っていききたい。

鍋山小学校の発表内容

学校の横には三刀屋川が流れていて授業中にも川のせせらぎの音が聞こえてくる。三刀屋川の水深はひざ下ぐらいなので調査しやすかった。今回の調査は9月10日、天気晴れ、気温32度、水温26度だった。透視度調査では100cm以上で水の澄んだ川だった。CODパックテスト結果では3~4mg/Lとなった。指標生物調査では小さな生物が多く難しかったが、水生昆虫はカワゲラ・オオシマトビケラ・ヒラタドロムシ・タニガワカゲロウ・ヒゲナガカワトビケラ・トビイロカゲロウ・ヒル類・コヤマトンボのヤゴ・サナエトンボのヤゴを見つけることができた。魚ではドジョウ・ドンコ・カワムツの他、ヌマエビも見つけた。水生生物調査の結果水質階級ⅠとⅡの生物が見つかったが、判定の結果「水質階級Ⅱのややきれいな水」となった。

三刀屋川は私たちにとって身近な川だ。今はきれいでも川を汚してしまうと汚くなったりするので、川にはゴミをすてないことや川に関心を持つことが大切だと思った。自分たちが大人になった時もきれいな三刀屋川であるようにしたい。

出雲西高校インターアクトクラブの発表内容

出雲西高発水環境改善プロジェクトと題して2年生女子と1年生女子二人で発表。

7月20日(8名参加)と9月14日(10名参加)に神戸川わかあゆの里で、CODパックテスト調査、水生生物調査などを行った。ヒラテテナガエビやアユなども採取できた。

45年前から稲佐の浜や日御碕海岸・くにびき海岸などで海岸清掃を行ってきた。その結果日本海岸は韓国、北朝鮮、中国のゴミが60%で外国のゴミでいっぱいなのが分かった。先輩達が島根県庁文化国際課に行き、現状を訴えた。そして高校生の日韓交流をするようになった。(10年前から)日韓の高校生による料理作り交流会や日韓のゴミについての意見交換会を開催した。漂着ゴミ、特にプラスチックゴミ問題は世界の問題だと分かったので、島根・鳥取26箇所でもマイクロプラスチックゴミの調査も行った。海と湖をきれいにするためには川をきれいにするのが重要ということが分かった。

川や池を浄化するBK-1団子作りにも挑戦している。「赤川の水質を浄化しホテルを呼び戻すプロジェクト」としてBK-1団子を投入し、ホテルの幼虫やカワニナを放流してホテルが戻ってきた。また神戸川

漁協からサケの卵をもらい受け、学校で飼育し孵化に成功して神戸川へサケの稚魚を放流することもできた。

海をきれいにするには川を、川をきれいにするには美しい森を作ることだと思い、間伐・枝打ちや植林にも挑戦した。地球の温暖化を防ぐためには豊かな森を作ること重要だ。

(温暖化の原因のCO2を吸収)(災害・山崩れを防止し、きれいな水を作る)

私達はこの素晴らしい出雲の水環境を保全・改善するために精一杯努力していきたい。



【会場での意見交換会】

出雲市教育委員会教育政策課副主任 恩田奈穂子氏総評

3校それぞれすばらしい発表で、大人も学びの多い発表会だった。

身近にありながら普段気にとめることのない川を今回学習して様々な気づきがあったと思う。小学生の皆さんに大事にしてもらいたいことは、川がもっときれいになって欲しいと思った気持ちを行動につなげてほしいということ。川や海のゴミ拾いだけでなく、道に落ちているゴミ一つを拾うことでも環境を良くしていくことにつながるので実践してほしい。

出雲西高生は45年前から継続して活動されており、続けることは大変だと思うが、先輩方から引き継いだ視野の広い活動をされていて感心した。先ほどの意見交換会にもあったが、同じ環境問題に取り組んだ小学生同士や、小学生と高校生との交流があれば良いとも感じた。これからの皆さんの活躍に期待している。



出雲河川事務所総括保全対策官 眞田淳二氏あいさつ

河川調査などの活動を通じて「知る」ことが大事。知る以上に「体験する」ことで身に着くことがたくさんある。体験を通じて「考える」ことで知識として蓄積されていく。私は、それが経験値となり知ることにも活かされてくると考えている。遥堪小学校の発表にあった、40年前はみんな川で生き物を採っていた時代だった。私も小学校低学年の頃は毎日川に入って生き物を採ってきてそれを飼育したりしていた。それらの体験が今の河川事務所ですべて役に立っている。小学生の皆さん、今日高校生の話を聞いて年齢を重ねるとできることも増えて



くるので、その中で自分のやりたいことを見つけて良い大人になって行ってほしい。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくりの活動を支援している私たちにとって、大変有意義な発表会であったと思うので関係者の皆様に感謝申し上げます。

一般社団法人中国建設弘済会 島根支部長 江角忠也氏あいさつ

中国建設弘済会は国土交通省のいろいろな事業を通して地域づくりや事業に関心を高める活動の支援をしている団体です。すばらしい発表をありがとうございました。小学校の皆さんはたくさん調べて川に関心を持っていただいた。これからも川を身近に感じながら、川との関わりを持ち続けていただきたい。近年災害が多発している。国土や暮らしを守るため、これからも川などに関心を持ち続けてほしい。



【発表者・関係者記念撮影】

NPO 法人しまね体験活動支援センター 青木充之理事長あいさつ

2校の小学生の皆さんの調査活動・成果発表ともに素晴らしかった。川に直接入って調査した体験は得難いものなので大切にしてほしい。出雲西高校の生徒達の素晴らしい発表を見てああいう風になりたいと思ったと思う。今後は皆さんに後を継いでもらいたいと思う。

長い期間、素晴らしい活動に取り組んできた出雲西高校の皆さんには、大学に行ったり社会人になっても、日本の環境・地球規模の環境、さらには今課題となってきた宇宙の環境問題にも関与できるような大人になってほしい。

今後も私たちしまね体験活動支援センターは体験活動を支援して行くので、今回の体験を活かして、大人になってから活かしてほしいと願っている。



児童生徒が身近な川を調査

出雲

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり

出雲市今市町の出雲科学館で11月30日、「第18回斐伊川・神戸川流域環境マップづくり」の成果発表会が開かれ、流域の学校に通う児童生徒らが今年実施した河川環境調査の取り組みを発表した。NPO法人しまね体験活動支援センターの主催。



各学校の取り組みを介。また、地球温暖化流域全体に紹介し、河川調査や環境保全活動の質を高め、流域全体の河川環境保全意識の機運を高めることを目的に毎年開いている。

今年、出雲市立遠畑小学校の児童6人、雲南市立鍋山小学校の7人、出雲西高校インターアクトクラブの2人が、動画などを交えながら順に発表。その後、互いの発表内容への感想や意見交換を行い、成果の検証を行った。

このうち、遠畑小の4年生の児童たちは、地域を流れる高浜川での調査について発表し、水質調査結果や確認できた水生生物を紹介。素晴らしい出雲の水環境を保全・改善するために精一杯努力していきたい、とした。



【意見交換会の様子】

調査について

調査場所の選び方]

〔調査に適した川とは・・・〕

この調査を行う川は、大きくても小さくてもかまいませんが、水の深さが 30cm 位までで、流れのある(流速 30～40cm/秒位)、川底にこぶしや頭位の大きさの石が多い場所で調査できるような川が適当です。ただし、調査地点の近くに、川底が泥で覆われているところしか見つからない場合には、そこで調査してもかまいません。なお、川底が一面コンクリートの場所、ヨシなどが川全体をおおっているような場所、水の流れのない場所は避けてください。

また、生物の調査は、川岸から少し離れたところで行うのが原則ですが、岸に近いところでも調査してください。本流から離れた ワンドや溜まり水は別に記録してください。

危険防止のための注意事項

〔調査は安全第一で〕

調査に危険を伴うような場合(当日川の水量が多い場合や水流の速さが早い場合)には、別の場所を探してください。危険防止にはくれぐれも注意してください。

〔基本的注意事項〕

1. 調査は3～5人のグループごとに行ってください。1人だけの行動は大変危ないので止めて下さい。
2. 川の流れは思った以上に速いものなので、流れの速さを確認してから川に入るようにして下さい。
3. 調査は、川底が見えるところで行って下さい。水深としては 30cm 位までのところとし、これよりも深いところには危険ですから入らないようにして下さい。
4. 川底に空きカンやガラスビンなどが落ちていて、川の中にはだして入るのが危険な場所もあります。長ぐつをはくか、ぬれてもよいクツをはいて調査して下さい。サンダルなどすべったりするはきものや流されそうなはきものは止めましょう。
5. 川底が急に深くなったり、やわらかい泥で足を取られたりすることがありますので、十分に気を付けて歩いて下さい。
6. 川底が、コケなどで大変すべりやすくなっている場所もありますので、ころんだり、すべったりしてケガをしないように十分に注意して下さい。また、川の中に入るときには、壊れやすいものや先のとがったものは身につけないようにして下さい。
7. 大変きたないと思われる場所で調査する場合には、ビニール手袋やゴム手袋などはめて調査して下さい。
8. 万ヶガをした時や蜂に刺されたりした時のため、病院の場所や緊急時の連絡方法について事前に確認しておいて下さい。

調査の仕方:

調査の仕方はすでに国土交通省より各学校に送らせていただきました「川の生きものをしらべよう」水生生物による水質判定—環境 省水環境部・国土交通省河川局編—21 ページ・22 ページを参考に調査して下さい。

知ってて楽しい調査の知識

指標生物について

川の中には多くの水生生物が生息していますが、その中には、その生物の存在から水の汚れを判定できる指標生物があります。このパンフレットでは、それらの水生生物の中から、以下の点を考慮して指標生物を選定しています。

- ①全国的に見つけることができ、ある程度の個体数がいり、夏の期間は必ずいる種であること。
- ②だれにでも見つけることができ、似ている種が少なく、区別が簡単であること。
- ③水温が0～30℃位の所にいる生物を対象に、水温に対しては幅広く生きることができるが、『水のごれ』に対しては敏感で、指標性の高い生物であること。
- ④水深の浅いところに生息している生物であること(具体的には、水深 30cm 程度以下)。
- ⑤原則として、指標生物には、昆虫類、貝類、エビ類、カニ類から、それぞれの水質階級に対応した生物を選定すること。

なお、ここで示した指標生物については、以下の事項に留意する必要がある。

- ①指標生物は、原則として全国的に生息している(沖縄を除く)ものであるが、オオシマトビケラは、東北地方以西に、サワガニは北海道以南に生息している。
- ②河川延長の短い河川では、出水によりすべての生物が流されてしまうことがあり、そのような河川では、水生生物による水質評価が困難であることが多い。
- ③指標生物に、トンボ類やカゲロウ類が少ないが、その理由は、これらの生物が水の汚れに対する水質階級の広い範囲に生息しており、指標性が乏しいためである。

「川の生きものをしらべよう」水生生物による水質判定—環境省水環境部・国土交通省河川局編—より抜粋

斐伊川・神戸川の水質の環境基準

斐伊川 本川 AA 1mg/ℓ 神戸川 上流 AA 1mg/ℓ ・ 下流 A 2mg/ℓ

グループ名
水中の生き物調査シート I

斐伊川・神戸川流域
環境マップづくり

グループ名
水中の生き物調査シート II

斐伊川・神戸川流域
環境マップづくり

調査年月日	令和年月日		時 分		天気	
	m	cm	調査場所	調査参加人数	気温	水温
河川名						
川幅・水深						
水質階級	<p>指標生物</p> <p>それぞれの欄に見つかった指標生物の数を記入し、結果欄に○印をつける。その内最も多かったものを2つに印をつける。0.1点・2点で階級別に集計比較。</p>					
I きれいな水	1	カワガケラ類				
	2	ヒラタカゲロウ類				
	3	ナガレトビケラ類				
	4	ヤマトビケラ類				
	5	アミカ類				
	6	ヨコエビ類				
	7	ヘビトンボ				
	8	ブユ類				
	9	サワガニ				
	10	ナミウズムシ				
IとIIの両方で見られる生物(指標生物ではない)		チラカゲロウ				指標生物ではない
		タニガワカゲロウ類				指標生物ではない
		ニンギョウトビケラ類				指標生物ではない
II ややきれいな水		ヒガナガワトビケラ類				指標生物ではない
	1	コガタシマトビケラ類				
	2	オオンマトビケラ				
	3	ヒラタドロムシ類				
	4	ゲンジボタル				
	5	コオニヤンマ				
	6	カワニナ類				
	7	ヤマトシジミ				
8	イシマキガイ					
III きたない水	1	ミズカマキリ				
	2	ミズムシ				
	3	タニシ類				
	4	シマイシビル				
	5	ニホンドロソコエビ				
	6	イソコップムシ類				
IV とてもきたない水	1	ユスリカ類				
	2	チョウハエ類				
	3	アメリカザリガニ				
	4	エラミミズ				
	5	サカマキガイ				

その他水辺で見られた生物

川のようす (水辺のようす・ゴミの状況など)
水辺のようす
川の中のゴミ
川原のゴミ
釣った魚の種類 (調査地点周辺で釣ったことのある魚)
その他(PH・COD 等の調査を行った学校はここに結果を記入してください)
調査に参加した感想や水辺への近づきやすさなどをお書き下さい

2024年度 第18回斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 調査参加者数一覧

	学校等名称	担当者	春調査	夏調査	秋調査	延べ人数	参加学年
飯南町	飯南町立頓原小学校	新田 峻平	20		60	80	4年生
出雲市	出雲市立神戸川小学校	多久和 雅俊	99			99	4年生
	出雲市立遥堪小学校	浅沼 美咲			16	16	4年生
	出雲市立須佐小学校	山部 紘和	10			10	4年生
	出雲市立多伎小学校	藤江 悠太			21	21	4年生
	出雲市立佐田中学校	辻村 優介			22	22	中学1年生
	出雲西高等学校	新田 篤生		8	10	18	高校1・2年生
雲南市	雲南市立鍋山小学校	坂野 夏			8	8	4年生
奥出雲町	奥出雲町立阿井小学校	秋田 幸彦	20			20	3・4年生
夏休み親子で宍道湖環境調査		事務局		9		9	4～6年生
合 計			149	17	137	303	

* 同じ時期に複数回河川環境調査を実施した場合には延べ人数で表記した。

* 統一性を図るため、7月11日以降8月31日までを夏調査とした。

春夏秋の調査をあわせると延べ**303人**が参加（通算すると子どものみで延べ**17,036人**）

2024年 調査参加校マップ



2024年 指導教員対象アンケートの結果

今年度の活動に関して、2024年冬に実施した指導教員等アンケートには、参加9校の全ての学校から回答をいただきました。

設問と回答結果

1. 本年度の実施について総合的に評価する とどうでしたか。

大変よかった	3人(33%)
よかった	6人(67%)
よくも悪くもなかった	0人
悪かった	0人
大変悪かった	0人

(回答数 9)

2. 来年度も協力して実施したいと考えていま すがいかがですか。

実施したい	5人(56%)
実施したくない	0人
わからない	2人(22%)

(学校統合のため川学習が本年度最後となる。複式学校のプログラムにより来年度は行わない)

その他 2人(22%)
(回答数 9)

3. 先生方を対象にした専門家による河川調 査の指導が来年度も必要ですか。

必要である	4人(44%)
必要でない	0人
わからない	5人(56%)
その他	0人

(回答数 9)

4. 事前指導者研修会についてご意見・ご感想をお願いします。

- ・ 調査の仕をしっかりと説明してもらえたり、用具を準備してもらえたりして、初めて行う人にとってはとてもありがたかったと思う。
- ・ 今年度は都合で参加ができませんでしたが、参加できると調査の様子や方法がよくわかってよいと思います。
- ・ 研修会には参加していないためありません。
- ・ 今年度教諭として初めての実施だったので、事前の研修会があり大変ありがたかったです。ありがとうございました。
- ・ 参加しておりません。
- ・ 事前に水質調査の仕方がわかり、安心して調査に取り組むことができました。専門的な内容も多く、実施していただき助かりました。
- ・ 都合により今年度は参加できませんでした。数年前に参加した際には、非常に有意義な研修だったと記憶しております。
- ・ これまで、校務の関係で参加したことがありません。予定が合えば、参加させていただければと思います。宜しくお願い致します。

5.. 要望・感想など自由にお書き下さい。(マップづくり・成果発表会についての感想など)

- ・ 生き物大好きな子どもたちにとって、この上ない内容でした。目を見開いて生き物を探す姿が見られとてもよかったと思う。虫が苦手な子も、最後にはがんばって探していて、とても楽しい活動だったと感じた。普段川などで遊ぶことが少ない子もいると思うため、このような機会に自然と触れ合うことができるのがよいと感じた。
- ・ 調査地点掲載用地図が簡素化されていて大変助かりました。
- ・ 遙堪地区は洪水が多く、全ての河川がコンクリートの護岸工事をしていて、生き物のいる場所が限られていた。
- ・ 大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。内容が重複している報告があるため、一本化していただくと助かります。
- ・ 今回の報告形式の方が例年より分かりやすいと感じます。次回もこの形でお願いしたいです。
- ・ 水質調査を年に何度か実施することは、行事や気候、学校の状態にもよりますが、難しいと感じています。
- ・ また、成果発表会への参加も「お願いします。」という感じだったので、初年度の学校としては、いきなり発表となると難しいというのが正直な気持ちです。
- ・ 本校はここ数年マップづくりには参加していませんでした。学校統合を控え、カリキュラム上、阿井川の環境調査が本年度で最後になります。最後の川調査を児童とともにに行い、記録に残したいと思い、マップづくりに参加させてもらいました。

阿井川は校区に広く流れる川で、児童も幼少期に泳いで遊ぶなど身近に親しんでいる川です。実際に川の環境を調査することで、身近な川にたくさんの生き物がいることや環境を守ってきた地域の人々がいることなどたくさんの気づきがあったと思います。

阿井川かきれいな川であろうことは予想していましたが、生き物を調査することで児童も確信をもって川のことを説明することができるようになったと思います。

マップづくりは、自分たちが調べた川だけでなく、島根県全体の川の環境を知ることができる点が、発展性がある活動だと思います。2学期は島根県全体のマップづくりの情報も活用しながら、環境学習を続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

- ・ 調査させていただく生徒は変わりますが、毎年参加させていただいており、かなりの年数調査をさせていただいております。生徒達にとっては、高校生になって改めて調査をさせていただくことで、小学生の頃には気付かなかったことや理解しにくかったこと等も学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。調査結果を毎年確認すると、調査地点の河川の様子・状況が良く分かります。改めて生徒達と共に、調査の重要性を実感いたしました。

更に、今年度は成果発表会にも参加させていただきました。本校の取り組みをたくさんの方に知っていただけたことや小学生のみなさんの発表を聞いたことは、とても良かったと思います。今回の調査・発表を機に、本校の生徒達は、高校を卒業した後も、また小学生達は中学校、高校と河川調査等の環境活動を継続してくれることを望んでいます。

また来年度も調査に参加させていただければと思っております。宜しく願い致します。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024 年報告書

学校名・施設名等 飯南町立 頓原小学校

担当者名 新田 峻平

対象河川名 神戸川（頓原川） 実施時期 春・夏

*夏の調査期間は7月11日から8月31日までとしています。

取り組み状況（河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について）

〔参加学年等〕 3, 4年生 〔参加者数〕 夏調査 15人 ・秋調査 15人

【夏の調査】 2024.7.8(月) 〈天気〉 晴れ 〈気温〉 30℃ 〈水温〉 20℃

〈一番多かった指標生物〉 カワニナ類 35 〈水のきれい度〉 ややきれいな水

〈その他の生物〉 ヒラタカゲロウ類 19 ナガレトビケラ類 5 ヤマトビケラ類 7 ナミウズムシ 10 タニガワカゲロウ類 4 ゲンジボタル 12 など

〈水辺の様子〉 護岸工事によって整備されている。

【秋の調査】

大万木山 2024.9.5(木) 〈天気〉 晴れ 〈気温〉 23℃ 〈水温〉 17℃

〈一番多かった指標生物〉 サワガニ 6 〈水のきれい度〉 きれいな水

〈その他の生物〉 ナガレトビケラ類 4、カワゲラ類 1、ヒラタカゲロウ類 3、ナミウズムシ 2 タニガワカゲロウ類 3

〈水辺の様子〉 周りに草が生い茂っていた。近くに人工の滝があった。

わかあゆの里 2024.9.5(木) 〈天気〉 晴れ 〈気温〉 27℃ 〈水温〉 24℃

〈一番多かった指標生物〉 ヒラタカゲロウ類 11 〈水のきれい度〉 きれいな水

〈その他の生物〉 カワゲラ類 3、チラカゲロウ類 4、タニガワカゲロウ類 21、カワニナ類 1

〈水辺の様子〉 岸付近は浅く、奥にいくと深く流れも速くなっていた。



夏の調査

子どもや教師・地域等の感想（子どもの反応や反省点、要望等）

夏…とても暑く、川に入るととても気持ち良く感じた。石をひっくり返してみるとたくさんの生き物がいて驚いた。自分たちの身近にある川がややきれいな水だという事でとても安心した。何かは分からないが魚が沢山いてつかまえることができた。

秋…大万木山から川に沿って調査をしてくることがとても楽しかった。大万木山は気温が低く、寒く感じた。水も透き通っていたのできれいな川なんだろうと思った。

わかあゆの里では、たくさんの生物を見付けることができた。小さいエビがいて初めて見てびっくりした。

海では、たくさんのごみがあってびっくりした。外国のごみもあって、遠いところから来たんだと思った。これからゴミを減らしていくために、ポイ捨てをしなかったり、シャンプーを使いすぎないことが大切だと思った。

子どもたちの感想から

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024年報告書

学校名・施設名等 出雲市立 神戸川小学校
担当者名 多久和 雅俊
対象河川名 神戸川 実施時期 春

*夏の調査期間は7月11日から8月31日までとしています。

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

〔参加学年等〕 4年生 〔参加者数〕 春調査 96人

【春の調査】 2024.6.25 (火) 〈天気〉くもり 〈気温〉26℃ 〈水温〉23℃

〈一番多かった指標生物〉カワニナ 150 〈水のきれい度〉ややきれいな水

〈その他の生物〉

スジエビ 16、タニガワカゲロウ類 17、コカゲロウ類 3、キイロカワカゲロウ 4、ミナミヌマエビ 3、スジエビ 16

〈水辺の様子〉護岸工事によって整備されている。コンクリート以外の場所はアシなどの草が生い茂っている。雨が数日続いた後で、普段より水かさが少し増していた。



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

・今回の調査で思ったことは、神戸川の水はきたないと思っていたけど、思ったよりはきれいだということが分かりました。たくさんの生き物がいる川をきれいに保つために、大切なことはなんなのか考えてみたいです。

・神戸川にはたくさんの生き物がいることが分かりました。生き物で川のきれいさを調べる「指標生物」という方法があることを知りました。神戸川の水質調査ができてよかったなと思いました。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024年報告書

学校名・施設名等 出雲市立 遙堪小学校

担当者名 浅沼 美咲

対象河川名 高浜川 実施時期 秋

*夏の調査期間は7月11日から8月31日までとしています。

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

〔参加学年等〕 4年生 〔参加者数〕 秋調査 16人

〈調査場所〉高浜川 (大水門付近) 〈実施日〉2024年9月12日 (木)

〈天気〉晴れ 〈気温〉34度 〈水温〉29度 〈川幅〉13m 〈水深〉40cm

〈川のきれい度〉ややきれいと判断

・pH 7 ・COD 5 mg/L ・透視度調査 100cm

〈一番多かった指標生物〉ヨコエビ類

〈その他の生物〉メダカが多数生息していた

〈水辺の様子〉

- ・護岸は整備されているが、川底には小石が堆積していた。
- ・川底には、水草が生えていた。
- ・川の中や川原に少しゴミがあった。
- ・前日雨天のため、水門の手前であったが、普段より、水位が高く、川の流が速かった。



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

- ・学校の前を流れている高浜川には、たくさんの生き物がいてびっくりしました。
- ・ナマズやドジョウなどの魚がいてびっくりしました。
- ・生き物は石や草の陰に隠れていました。
- ・メダカがたくさんいたので、きれいな川だと思いました。
- ・見た目は茶色く濁っていたけれど、透視度テストやパックテストをすると意外ときれいな水でびっくりしました。
- ・COD パックテストやpHパックテストのやり方が分かりました。
- ・1学期から、高浜川を作った三木与兵衛について学習をしてきました。遙堪地区を洪水から守る高浜川を大切にしていきたいです。
- ・遙堪地区の川は護岸工事でコンクリートの川ばかりなので、自然の川にはどんな生き物がいるか知りたいです。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024年報告書

学校名・施設名等 出雲市立 須佐小学校

担当者名 山部 紘和

対象河川名 須佐川 実施時期 春

*夏の調査期間は7月11日から8月31日までとしています。

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

〔参加学年等〕 4年生 〔参加者数〕 春調査 10人

【春の調査】

〈実施日〉2024. 6. 21 (金) 〈天気〉晴れ

〈川の名前〉須佐川 〈調査場所〉須佐小学校前

〈気温〉27℃ 〈水温〉20℃

〈透視度〉75cm 〈CODパックテスト〉4mg/L

〈水のおい〉なし 〈透明さ〉ややきれい

〈水辺の様子〉前日から朝方まで雨が降っていたため、

普段よりも若干水量が増え、濁っていたように感じる。

〈指標生物〉水質階級Ⅰ アミカ類4、ナミウズムシ5、

ナガレトビケラ類26、サワガニ2、

ヤマトビケラ類10、ヘビトンボ1、

水質階級Ⅱ ヒラタドROMシ類6、カワニナ類2、

水質階級4 ユスリカ類1

〈水質判定〉きれいな水



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

夏 ○川の中には小さな生き物がたくさんいることがわかりました。

→生き物の特徴やすみかを模造紙にまとめた。

○指標生物を数えるのが大変でした。

○見たことのない生き物がたくさんいてびっくりしました。

○須佐川には、たくさん生き物が住んでいることがわかりました。

○須佐川の水はきれいだけれど、少しあわ立っていたのでこれ以上水が汚れてほしくないと思いました。

○須佐川のきれいな水をずっと守っていきたいと思いました。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024年報告書

学校名・施設名等 出雲市立 多伎小学校

担当者名 藤江 悠太

対象河川名 宮本川 実施時期 夏

*夏の調査期間は7月11日から8月31日までとしています。

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

〔参加学年等〕 4年生 〔参加者数〕 夏調査 21人

【夏調査】2024年9月17日(火)〈天気〉晴れ〈気温〉29℃〈水温〉25℃

〈一番多かった指標生物〉ヒラタカゲロウ23

〈水のきれい度〉透視度は100cm以上のきれいな水

〈その他の生物〉カワゲラ16、ヨコエビ6、ヘビトンボ4、ナガレトビケラ2、アミカなど多数。

〈PH〉7.0

〈COD〉20

〈川幅〉5m



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

- 夏
- ・宮本川は水質階級がIですごくうれしかったです。きれいな水に住む生き物たちがたくさんいて安心しました。
 - ・宮本川がとてもきれいな川だと水質調査を通して知ることができてよかったです。ずっと水質階級Iが続くようにしたいです。
 - ・宮本川はきれいな川だと知ることができたけど、きれいな川に住む生き物もいれば、きたない川に住む生き物もいてびっくりしました。
 - ・水質調査はこんなにわかりやすくいろいろなことを調べ、まとめるのだなとおどろきました。
- 当初予定していた時期には大雨による土砂崩れで実施することができなかった。天候のことなのでしょうがないところもあるが、実施時期などを精査する必要がある。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024 年報告書

学校名・施設名等 出雲市立 佐田中学校

担当者名 辻村 優介

対象河川名 神戸川 実施時期 秋

*夏の調査期間は7月11日から8月31日までとしています。

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

〔参加学年等〕 1年生 〔参加者数〕 秋調査 22人

【秋の調査】 2024.9.2 (月) <天気> 晴れ、 <気温> 30℃ <水温> 24℃

<一番多かった指標生物> カワニナ 18

<水のきれい度> ややきれいな水

<その他の生物> ヒラタドロムシ 17、カワゲラ 6、ヤマトビケラ 6、コオニヤンマ 2
サワガニ 1、ナガレトビケラ 1、コガタシマトビケラ 1

ミナミヌマエビ 400以上、

<水辺の様子>

大量の草が生い茂っていた。

数日前に台風があったため普段よりやや水量は多かったが、水は透き通っていた。



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

○神戸川の水質はきれいだと思っていたので、「ややきれい」という結果が出たのには驚きました。この結果から、神戸川にはたくさんの生き物が暮らしているということが分かりました。また、神戸川には豊かな生態系が築かれていることが分かりました。

○今回の水質調査を通して、これからはもっと神戸川に興味をもち、神戸川を大切にしていこうと思いました。

○河川調査を通して、「川はどこから始まるのだろう」と不思議に思いました。新たな課題も見つけて良かったです。(生徒の感想より)

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024 年報告書

学校名・施設名等 雲南市立 鍋山小学校

担当者 坂野 夏

対象河川名 三刀屋川 実施時期 秋

*夏の調査期間は7月11日から8月31日までとしています。

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

〔参加学年等〕 5年生 〔参加者数〕 秋調査 8人

【秋の調査】2024.9.10 〈天気〉晴れ 〈気温〉32℃ 〈水温〉26℃

〈一番多かった指標生物〉ヒラタドROMシ15 〈水のきれい度〉ややきれいな水

〈その他の生物〉カワゲラ4、オオシマトビケラ2、

タニカワカゲロウ5、ヒゲナガカワトビケラ1、

サナエトンボ1、ヒル類1、トビイロカゲロウ1

など

〈水辺の様子〉

水害の被害(令和3年)を受け、一部護岸工事されており、流れや地形に変化があるものと思われる。

川岸には、草が生い茂っている。今回の調査のために、学校で刈ってもらった。

水かさは、深いところだと1m程度、浅いところで数cmとなっている。



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

○三刀屋川は、どんな川なのだろうと思っていただけ、今回の調査を通して、「きれい」「ややきれい」な川だと分かった。

○今回の調査で、大きなドジョウを捕まえて、こんなに大きなドジョウがいて驚いた。

○ごみを捨てない、ポイ捨てしないという気持ちをもつことができた。

○透視度調査をして、1m以上という結果だった。すごくきれいだと分かった。

○きれいな川を守っていきたいと感じた。

など多くの感想が振り返り用紙や授業の中で出ました。

担任としても、児童の「三刀屋川はきれいだろう」というぼんやりした認識が、透視度やCOD、指標生物などの調査によって数値として、分かったことはよかったと感じています。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024 年報告書

学校名・施設名等 奥出雲町立 阿井小学校

担当者名 秋田 幸彦

対象河川名 阿井川 実施時期 春

*夏の調査期間は7月11日から8月31日までとしています。

取り組み状況 (河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について)

〔参加学年等〕 3・4年生 〔参加者数〕 春調査 20人

2024.6.17 (月) (天気) くもり 〈気温〉 25℃ 〈水温〉 20℃

〈一番多かった指標生物〉ヒラタカゲロウ7 〈水のきれい度〉きれいな水

〈その他の生物〉サワガニ1、ナガレトビケラ類2、ヘビトンボ3、ヨコエビ1、コオニヤンマ1、カワニナ類1、コガタシマナガレトビケラ1、タニガワカゲロウ4、ヒゲナガカワトビケラ9、コカゲロウ類11

〈水辺の様子〉川幅およそ10~15m。西側の土手には大人の腰の高さほどの草が生えており、田んぼが広がっている。

東側は木が生い茂っており、林のようにになっている。

川は深いところで1mほどだが、浅いところが多く、小石が広がっている。

梅雨前で雨が少ないため、水かさはやや少なめであった。



子どもや教師・地域等の感想 (子どもの反応や反省点、要望等)

〈児童より〉・阿井川はきれいな川で、水生生物がたくさんいるのが分かりました。COD 検査も面白くて、こんな方法で水生生物を見分けることができるのだなと思いました。水生生物を見分けるのは、あまりやったことのない活動だったので楽しかったです。

・川にはたくさんの水生生物がいることが分かりました。水生生物はなぜ小さい生き物ばかりなのだろうと疑問に思いました。これからもルールを守って、川をよりきれいな水にしていきたいと思います。

〈教員より〉児童は楽しみながら生物を採取したり、分類したりしながら川の環境を調べました。阿井川がきれいな川であろうことは予想していましたが、生き物を調査することで、阿井川がきれいな川であることに確信をもつことができました。実際に身近な川の環境を調査することで、川にたくさんの生き物がいることや環境を守ってきた地域の人々がいることなどたくさんの気づきがあったと思います。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024 年報告書

学校名・施設名等 出雲西高等学校インターアクトクラブ

担当者名 顧問 新田 篤生

対象河川名 神戸川 実施時期 夏・秋

取り組み状況（河川環境の状況、学習での取り組み、指導者・ボランティア等について）

〔参加学年等〕 高校1・2年生 〔参加者数〕 夏調査 8人・秋調査 10人

【夏の調査】 2024.7.20（土） 〈天気〉曇 〈気温〉28.0℃ 〈水温〉22.0℃

〈一番多かった指標生物〉カワゲラ類7 〈水のきれい度〉きれいな水

〈その他の生物〉ヒラタカゲロウ類5、カワニナ類・コガタシマトビケラ類2、ナガレトビケラ類・オオシマトビケラ・ヒラタドROMシ類1、タニガワカゲロウ11、ニンギョウトビケラ・キイロカワカゲロウ2、ヒゲナガカワトビケラ・コカゲロウ類1 他

〈水辺の様子〉7月の調査としては、気温・水温が低い状態での調査となった。CDDパックテストや透視度調査、水生生物調査を行った。例年よりも水生生物の数が少なかった。透視度調査は、測定値100cm以上であった。



(COD パックテスト 4mg/L、pH7)

【秋の調査】 2024.9.14（土） 〈天気〉晴 〈気温〉33.0℃ 〈水温〉31.0℃

〈一番多かった指標生物〉カワゲラ類14 〈水のきれい度〉きれいな水

〈その他の生物〉ヒラタカゲロウ類6、ヒラタドROMシ類3、コオニヤンマ2、カワニナ類・シマイシビル1、タニガワカゲロウ17、チラカゲロウ5、カワムツ27、ヒゲナガカワトビケラ1、ヌマエビ14、サナエトンボヤゴ3、ヒラテテナガエビ1 他

〈水辺の様子〉9月の調査は水生生物の数が少ないと思っていたが、気温や水温が高く、1回目の調査よりもたくさんの水生生物がいた。透視度調査は、測定値100cm以上であった。



(COD パックテスト 4mg/L、pH7)

子どもや教師・地域等の感想（子どもの反応や反省点、要望等）

夏 ○普段は、川を見ただ目で「きれい」「汚い」と判断しているが、調査し、データから判断することにより、より深く川の水質等の状況を知ることができ、とても勉強になった。神戸川は「きれいな水」であることが分かった。また調査に参加したいと思った。

○初めて調査に参加する生徒達もいたため、調査をすることが川の水質や環境等を考える良いきっかけになったと思う。これからも継続して調査をしていきたい。

秋 ○今回の調査は7月に実施した時よりも気温・水温が高かったためか、水生生物の数は多く、透視度調査は100cm以上と、とてもきれいな状態だった。

○網で川の中をすくってみると、様々な水生生物を捕まえることができた。また、石の下をみると、網ではすくえなかったとても細かい水生生物を見ることができた。調査をすることで、川の状況を直接感じることもできたので、とても良かった。

成果発表会 ○自分達の取り組みをたくさんの方に知っていただけたことと、小学生の発表を聞いたことがとても良かったし、勉強になった。

斐伊川・神戸川流域環境マップづくり 2024 年報告書

学校名・施設名等 NPO 法人しまね体験活動支援センター

担当者名 事務局長 岩崎 知久

対象河川名 宍道湖（嫁が島付近） 実施時期 夏

取り組み状況（湖沼環境の状況、調査での取り組み、指導者等について）

〔参加学年等〕 4～6年生と保護者 〔参加者数〕 夏調査 子ども 9人

【夏の宍道湖（嫁ヶ島付近）調査】8月4日〈天気〉晴れ〈気温〉35℃〈水温〉31.7℃
水質判定等の調査は公益財団法人島根県環境保健公社のスタッフ等が指導

〈1番多かった指標生物〉ヤマトシジミ 92 個体、ニッポンドロソコエビ 1 個体

〈水のきれい度〉 ややきれい

透視度 90 cm COD 5 mg/L

〈その他の生物〉 ユスリカ類

貝類 カワグチツボ

甲殻類 ムロミスナウミナナフシ、ヤマトスピオ



子ども達の感想

(参加した子ども達の感想)

- ・しじみが、宍道湖の水をきれいにくれていること、シジミの赤ちゃんがとても小さくてびっくりした。
- ・湖でも塩は入っているんだなと思ったし、しじみが水をきれいにしてすごかったです。
- ・ちょっとのみ物をすてたらすぐによごれたので、すてないように心がけたいです。・調査に参加してみて、水質汚染の原因の7割が生活排水と教えてもらったので、僕たちは源流域に住んでいるので、水に悪いものを流さないようにしたいと思います。
- ・私が大きくなってもしじみがたくさんとれる宍道湖を守りながら、もっときれいにして環境基準に入れるように日々の行いを正していきます。しょう来は自然や生き物にかかわるお仕事がしたいです。